



## 注目ポイント

- ✓2023年度は、日銀が約17年ぶりの利上げを実施。また、日本株式は歴史的な大幅(日経平均+44%、TOPIX+38%)上昇。
- ✓日本市場は、今週から新年度入りするが、直近では為替市場で「円安ドル高」が進み1990年以來の1ドル=152円台を視野に入れた展開に。足元では、「米国の利下げはいつ?(どのくらい?)」、そして「日本は、いつ追加利上げする?(できるのか?)」といったことが、重要なテーマとなっている。
- ✓今週は、為替市場で1ドル=152円を超えるのか?それとも政府日銀の為替介入(円買いドル売り)が入るのか?また指標などでは、日銀短観(1日)や米雇用統計(5日)に要注目。

## ①マーケット動向(実績)

2024年3月25日 ~ 2024年3月29日

| 市場・指標 |                  | 3月25日 ~ 3月29日 |        | 3月29日  | 前週末比 |       | トレンド<br>(直近2か月) | 先週の動き<br>(英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。)  |
|-------|------------------|---------------|--------|--------|------|-------|-----------------|--|
|       |                  | 高値            | 安値     | 終値     | 騰落幅  | 騰落率   |                 |  |
| 株式    | 日本<br>日経平均(円)    | 40,979        | 40,054 | 40,369 | -519 | -1.3% |                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>日経平均株価は下落。27日には、3月決算配当取りを目的とした買いもあり、一時的に史上最高値を上回る場面もみられたが、これまで日本株の買い材料となっていた円安ドル高が一服したことが影響し、輸出関連株を中心に売りが優勢となった。一方で、日経平均株価が40千円近くまで下落する局面では、日本株の先高観を期待した押し目買いが下値を支えた。</li> <li>NYダウは上昇。米利下げ観測と米経済のソフトランディング期待から買い優勢となり、NYダウは2週連続で最高値更新。</li> <li>DAX(独)も最高値更新。</li> </ul> |
|       | 米国<br>NYダウ(ドル)   | 39,869        | 39,277 | 39,807 | +331 | +0.8% |                 |  |
|       | ドイツ<br>DAX(ポイント) | 18,514        | 18,177 | 18,492 | +287 | +1.6% |                 |  |

| 市場・指標  |               | 3月25日 ~ 3月29日 |       | 3月29日 | 前週末比   |  | トレンド<br>(直近2か月) | 先週の動き<br>(英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。)   |
|--------|---------------|---------------|-------|-------|--------|--|-----------------|---|
|        |               | 最高            | 最低    | 終値    | 変化幅(%) |  |                 |   |
| 金利(国債) | 日本<br>10年(%)  | 0.740         | 0.700 | 0.725 | -0.015 |  |                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の長期金利は低下。年金系投資家による年度末のリバランス(債券買い&amp;株式売り)や、新発40年国債入札が堅調な結果に終わったことなどもあり、10年国債利回りは一時は0.70%(約3週間ぶり)まで低下。また27日には、日銀で最もタカ派と見られている田村審議委員が、「当面、緩和的な金融環境が継続する」と述べたことが債券買い安心感につながった。</li> <li>米国の長期金利は横這い。先週、新発中期債(2年、5年、7年)の入札が、相次いで無難に消化されたことが、債券の買い安心感となった。しかし27日にFRBのウォー理事が「利下げ開始を急ぐ必要はない」との見解を改めて示したことが、債券相場の重荷となった。</li> </ul> |
|        | 米国<br>10年(%)  | 4.27          | 4.18  | 4.20  | +0.00  |  |                 |   |
|        | ドイツ<br>10年(%) | 2.38          | 2.29  | 2.30  | -0.02  |  |                 |   |

| 市場・指標 |        | 3月25日 ~ 3月29日 |        | 3月29日  | 前週末比   |  | トレンド<br>(直近2か月) | 先週の動き<br>(英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。)   |
|-------|--------|---------------|--------|--------|--------|--|-----------------|---|
|       |        | 高値            | 安値     | 終値     | 変化幅(円) |  |                 |   |
| 為替    | 米ドル(円) | 151.97        | 151.03 | 151.35 | -0.06  |  |                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ドル円は小幅に円高ドル安。日銀は、マイナス金利解除後の追加利上げに慎重な姿勢を示し、一方でFRBは、利下げを急がない姿勢を示したことで、日米金利差が縮小しにくいとの見方が強く、ドルは一時1ドル=151円97銭(27日)まで買われた。一方で、同日夜に、財務省、金融庁、日銀が3者会談を開いたことから、為替介入(円買いドル売り)への警戒が強まり、その後ドルの頭は押えられ、高値もみ合いの状況。</li> <li>ユーロ円は円高ユーロ安。円高ドル安に加えて、対ドルでのユーロ安も影響した。</li> </ul> |
|       | ユーロ(円) | 164.42        | 162.94 | 163.30 | -0.37  |  |                 |   |
|       | 豪ドル(円) | 99.25         | 98.17  | 98.59  | -0.07  |  |                 |   |

| 市場・指標 |                   | 3月25日 ~ 3月29日 |       | 3月29日 | 前週末比 |       | トレンド<br>(直近2か月) | 先週の動き<br>(英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。)  |
|-------|-------------------|---------------|-------|-------|------|-------|-----------------|--|
|       |                   | 高値            | 安値    | 終値    | 騰落幅  | 騰落率   |                 |  |
| その他   | 日本<br>東証リート(ポイント) | 1,827         | 1,790 | 1,795 | -22  | -1.2% |                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>東証リート指数は小反落。週初こそ前週から4営業日続伸して始まったが、その後は利益確定売りが優勢となり下落。ただし、日銀がマイナス金利解除後も低金利政策を継続するとの見方から、一定の買い安心感もあり、東証リート指数は、1,800ポイント割れでは押し目買いも入り底堅さも見られた。</li> </ul> |
|       | 米国<br>NY原油(ドル)    | 83.21         | 80.55 | 83.17 | +2.5 | +3.2% |                 |  |
|       | NY金(ドル)           | 2,257         | 2,186 | 2,238 | +57  | +2.6% |                 |  |

(注) 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

## ②マーケット動向(予想)

2024年4月1日 ~ 2024年4月5日

### 株式(日本)

高値もみ合い

日経平均株価  
【予想レンジ】 39,750 円 ~ 41,000 円

- ・新年度入りする今週は、機関投資家による期初の益出しなども予想されるが、足元では為替が円安水準で推移していることや、米経済のソフトランディング観測の高まりなど、外部環境が良好なことから、企業の業績見通しに対する期待感の高まりが下支え要素となろう。また1日に発表される日銀短観の結果次第では、株価が上値をトライすることも予想される。
- ・一方で、3月には株式を筆頭に多くのリスク性資産が上昇しており、市場が過度に楽観的になっている点が落とし穴となり、想定外に調整する可能性もある。



### 金利(日本)

弱含みもみ合い (長期金利はやや上昇)

10年国債利回り  
【予想レンジ】 0.680 % ~ 0.750 %

- ・今週は、日銀短観のほか10年国債の入札などのイベントが売買材料として市場参加者の注目が集まる。低金利環境が継続すると見込まれるものの、先週長期金利は0.70%付近まで低下しているため、金利に上昇圧力がかかりやすい展開が想定される。
- ・米国が祝日であった29日に発表されたPCE物価指数(2月)が、市場の予想通りではあったが、前年比2.5%上昇と1月の2.4%から加速した。これを受けた連休明けの米金利の動向を睨みつつ、居所を探る動きを予想。



### 為替(米ドル)

ドルが上値を試す展開

米ドル/円  
【予想レンジ】 150.20 円 ~ 152.50 円

- ・日米金利差が縮小しにくいとの見方が、引き続きドル買い要因となる。ただし、ドル円は1990年以來の1ドル=152円台を視野に入れている状況で、日本政府関係者から円安牽制発言が続くなど、政府日銀の為替介入(円買いドル売り)への警戒感は強く、ドルの上値を抑えるだろう。
- ・連休明けの米長期金利の動向や、3月の米雇用統計(5日)の結果によっては波乱含みの展開も想定。



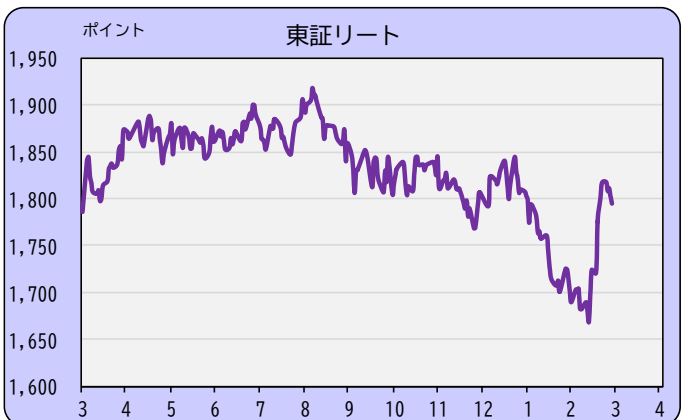
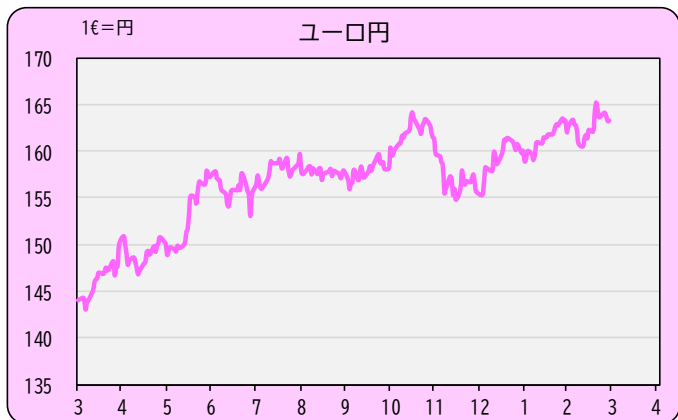
英字略称については、最終頁の頻出英字略称用語一覧を参照願います。

○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

| 月日     | 国内                     | 海外                              |
|--------|------------------------|---------------------------------|
| 4/1(月) | 日銀短観(2024年3月調査)        | 米国: ISM製造業景況指数(3月)              |
| 4/2(火) | 10年物利付国債の入札            |                                 |
| 4/3(水) |                        | 米国: ISM非製造業景況指数(3月)             |
| 4/4(木) | 30年物利付国債の入札            | 米国: 貿易収支(2月)                    |
| 4/5(金) | 家計調査(2月)<br>景気動向指数(2月) | 米国: 雇用統計(3月)<br>米国: 消費者信用残高(2月) |

## ③その他チャート集

直近1年間



※頻出英字略称用語一覧

| 略称   | 正式名称       | 略称   | 正式名称     | 略称   | 正式名称               |
|------|------------|------|----------|------|--------------------|
| CTFC | 米商品先物取引委員会 | FRB  | 米連邦準備理事会 | PCE  | 個人消費支出             |
| CPI  | 消費者物価指数    | FTA  | 自由貿易協定   | PER  | 株価収益率              |
| ECB  | 欧州中央銀行     | GDP  | 国内総生産    | PMI  | 購買担当者景気指数          |
| ETF  | 上場投資信託     | IMF  | 国際通貨基金   | PPI  | 米卸売物価指数            |
| EU   | 欧州連合       | ISM  | 米供給管理協会  | TPP  | 環太平洋経済連携協定         |
| FDI  | 海外直接投資     | OECD | 経済協力開発機構 | WSTS | 世界半導体市場統計          |
| FF   | フェデラルファンド  | OPEC | 石油輸出国機構  | WTI  | ウエストテキサスインターメディアート |
| FOMC | 米公開市場委員会   | PBR  | 株価純資産倍率  | YCC  | イールドカーブコントロール      |

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いします。